

令和7年度砥部中学校学校評価

＜総合判定＞

A：8割以上が肯定

B：6割以上が肯定

C：6割未満が肯定

＜判定基準＞

対象	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1	◎：評価点4・3が80%以上 ○：評価点4・3が60%以上80%未満 △：評価点4・3が40%以上60%未満 ×：評価点4・3が40%未満
生徒	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	
保護者	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	
教員	よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	できていない	

No	評価項目	総合判定	学校による考察・改善方策	対象	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1	評価点平均	判定	質問項目	前年度	一昨年度
1	主体的学習態度	A	学習意欲を育てる授業実践・授業改善を継続するとともに、課題の出し方を工夫したり、個に応じた学習支援を充実させたりすることで、家庭での主体的な学びにつながるよう努める。	生徒	62%	31%	5%	2%	3.5	◎	私は、授業に熱心に取り組み、準備物や宿題などきちんと整えようとしている。	A	A
				保護者	16%	33%	32%	19%	2.4	△	お子様は主体的に家庭学習を行っている。		
				教員	44%	56%	0%	0%	3.4	◎	学習意欲を育てる授業を行っている。		
2	よくわかる授業	A	話し合い活動やICT活用、振り返りの充実などこれまでの取組の成果と課題を明確にすることで、更なる授業改善に向けて、今後も生徒にとって分かりやすい授業を目指す。	生徒	48%	46%	5%	1%	3.4	◎	砥部中の先生は、生徒一人一人がよく分かる授業をしてくれる先生が多い。	A	A
				保護者	35%	51%	10%	3%	3.2	◎	学校は分かる授業に熱心に取り組んでいる。		
				教員	40%	56%	4%	0%	3.4	◎	工夫改善し、「わかる」授業を行っている。		
3	道徳教育	A	学年部で意識統一し、計画的に授業に取り組んでいる。ローテーション道徳や研究授業、評価の工夫により、道徳教育を更に充実させていく。	生徒	63%	30%	5%	2%	3.6	◎	砥部中は、道徳教育に熱心である。	A	A
				保護者	28%	62%	10%	1%	3.2	◎	学校の道徳教育が充実している。		
				教員	32%	56%	12%	0%	3.2	◎	道徳の授業の充実に努めている。		
4	人権・同和教育	A	今後も引き続き、生徒たちが様々な人権課題について、自分にも関係することとして捉えられるように教職員も生徒と共に学びを深めていきたい。	生徒	73%	25%	2%	1%	3.7	◎	砥部中は、人権に関する指導に力を入れている。	A	A
				保護者									
				教員	48%	44%	8%	0%	3.4	◎	主体的に人権・同和教育の指導に取り組んでいる。		
5	教育相談	A	教育相談は毎月1回行っているが、保護者に十分周知できていない。教育相談の仕組みや日常的な生徒理解の取組を発信することで、認識のずれを縮め、学校への信頼感を高めていく。	生徒	50%	38%	9%	4%	3.3	◎	砥部中の先生は、生徒の心の悩みをよく聞いてくれる。	A	A
				保護者	23%	52%	21%	4%	2.9	○	学校は教育相談等により生徒の心に寄り添っている。		
				教員	52%	48%	0%	0%	3.5	◎	教育相談を充実させ、生徒理解を深めている。		
6	総合的な学習の時間	A	整理・分析結果をもとに、探究的な見方や考え方を働かせると共に、よりよく課題を解決していくことで、自己の生き方を考えていくための資質や能力の育成にさらに努めていきたい。	生徒	63%	32%	4%	1%	3.6	◎	砥部中は、総合的な学習の時間に熱心で、学習内容は充実している。	A	A
				保護者	30%	62%	8%	1%	3.2	◎	学校の総合的な学習の時間が充実している。		
				教員	40%	56%	4%	0%	3.4	◎	豊かな心を育てる体験活動を取り入れた指導を行っている。		
7	生徒会・学校行事	A	よりよい学校生活を自分たちでつくっていかうという生徒の自主性を育むため、生徒の意見を反映させながら活動内容を工夫し、生徒会活動や学校行事の運営を行っていきたい。	生徒	63%	31%	5%	1%	3.6	◎	砥部中の生徒会活動や学校行事・学年行事は充実している。	A	A
				保護者	37%	55%	8%	0%	3.3	◎	学校の生徒会活動や学校行事が充実している。		
				教員	44%	48%	8%	0%	3.4	◎	生徒の自発的、自治的活動を大切にし、主体性を育てている。		
8	集団づくり	A	委員・係など学級の組織の一員としての自覚を持たせ、集団づくりに努めさせる。学校行事などにも自分事として積極的に関わらせていく。	生徒	54%	38%	6%	2%	3.5	◎	砥部中は、生徒一人一人を大切にしたい集団づくりに取り組んでいる。	A	A
				保護者	19%	66%	13%	3%	3.0	◎	学校は生徒一人一人を大切にしたい集団づくりに努めている。		
				教員	52%	44%	4%	0%	3.5	◎	生徒一人一人を大切にしたい集団づくりに努めている。		
9	いじめ・不登校	A	生徒の評価は高い一方で、保護者評価はやや低い。生徒への対応はできているが、初期対応や未然防止の可視化が不足しがちと考えられる。事実や取り組みだけでなく、変化や対応後の様子を伝える。	生徒	49%	38%	10%	3%	3.3	◎	砥部中は、いじめ・不登校問題等に対し、真剣に取り組んでいる。	A	A
				保護者	16%	57%	23%	4%	2.8	○	学校はいじめ・不登校・非行問題等への生徒指導に力を入れている。		
				教員	56%	40%	4%	0%	3.5	◎	いじめ・不登校問題等に対し、的確な対応をしている。		
10	部活動	A	部活動地域移行に関しては、町教委、地域クラブとのよりよい連携を視野に入れて、生徒にとってプラスになる形を模索していきたいと考えている。	生徒	65%	31%	2%	2%	3.6	◎	砥部中は、部活動に熱心で、活動は充実している。	A	A
				保護者	25%	58%	13%	4%	3.0	◎	学校は生徒の心身の成長に応じた部活動の運営を行っている。		
				教員	44%	56%	0%	0%	3.4	◎	生徒の心身の成長に応じた部活動の運営を行っている。		

No	評価項目	総合判定	学校による考察・改善方策	対象	評価点4	評価点3	評価点2	評価点1	評価点平均	判定	質問項目	前年度	一昨年度
11	事故防止・安全教育	A	交通安全指導について肯定的な回答が多いが、今年度は砥部中生の交通事故が多く発生していた。来年度は今年度よりも事故件数を減らせるように更なる交通安全意識の高揚に努めたい。	生徒 保護者 教員	64% 29% 56%	31% 59% 44%	3% 11% 0%	1% 1% 0%	3.6 3.2 3.6	◎ ◎ ◎	砥部中は、生徒の事故防止や交通安全に力を入れている。 学校は生徒の事故防止や交通安全の徹底している。 徹底した交通安全指導を行っている。	A	A
12	挨拶の習慣	A	元気のよい挨拶ができる生徒が以前より増えてきている。自分から進んで挨拶できるように呼び掛けをしていきたい。	生徒 保護者 教員	54% 27% 52%	37% 48% 44%	7% 21% 4%	2% 4% 0%	3.4 3.0 3.5	◎ ○ ◎	私は、自ら進んで、気持ちのよいあいさつをするよう心がけている。 生徒は自ら進んで挨拶を行っている。 進んであいさつをするように指導を行っている。	A	A
13	早寝・早起き・朝ごはん	B	保健体育科や家庭科の授業、学級活動を通して、朝食と睡眠の重要性を伝えている。委員会活動では感染症対策として早寝を呼びかけ、生徒の意識向上に努めている。	生徒 保護者 教員	43% 27% 28%	36% 40% 60%	17% 22% 12%	4% 11% 0%	3.2 2.8 3.2	○ ○ ◎	私は、早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身に付いている。 お子様は早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付くよう指導を行っている。	B	B
14	家庭・地域との連携	B	学校から発信するHPにて日々の授業等の様子を伝えることができた。また、必要に応じて連絡ツールであるテトルの活用を行った。さらに地域との協力・連携を取り教育活動の充実を図る。	生徒 保護者 教員	 20% 44%	 52% 52%	 24% 4%	 4% 0%	 2.9 3.4	 ○ ◎	 学校から家庭・地域への情報提供が充実している。 適切な情報発信に努め、信頼される学校づくりに努めている。	B	B
15	砥部中学校への愛着	A	より一層、ぬくもりある学校、信頼される学校を目指し、お互いを認め合える環境づくりや居場所づくりに努める。	生徒 保護者 教員	60% 52%	31% 48%	8% 0%	2% 0%	3.5 3.5	◎ ◎	私は、砥部中学校が好きである。 砥部中学校に愛着がある。	A	A
○学校運営協議会からの質問・所見 ◇学校の対応											学校の対応		
①校則について ◇校則検討委員会を開いて、生徒主体で校則について検討している。学校でのルールは集団生活の中で学ばなければならないと考えている。服装検査のようなことはしていない。頭髪等で疑問がある場合は、相談に応じている。 ②部活動地域展開について ○受け皿、居場所、指導者の研修など多くの課題がある。 ○アメリカ視察に行った際、アメリカの学校は15：30にはバスがきて、一斉に下校している。日本とは違っている。 ◇土日の部活動は、徐々に縮小していくことになっているが、練習試合などもあり、どのように縮小していくかがとても難しい。 ○部活動の地域展開は、地域で考えていかなければいけない。部活動に何を求めるか。中学生は難しい年頃なので、指導者は研修が必要。地域に関心を持ってもらって、コーディネートできるようなことがあればいいと思う。 ④いじめや不登校について ◇アンケート調査や教育相談等の機会を設けたり、休み時間の様子を見守ったりして、いじめについて対応し、解決につなげている。さらに生徒に心に寄り添っていききたい。 ○地域でも、スポーツで不登校生と関わることもあり、前向きに変化していく生徒もいた。 ③早寝・早起き・朝ごはんについて ◇愛媛県は朝食を摂取率がワースト1位になっている。朝食の必要性について保健体育科や技術・家庭科、学級活動で学習している。 ○保護者を食べる大人が知識が必要。社会教育課でも、研修会を開いている。家庭へどんどん啓発して、朝食を食べ、健康に過ごしましょう。 ⑤挨拶について ○下校中の生徒が挨拶をしてくれることがあり、大変気持ちがよい。											保護者・生徒・教員の三者による学校評価の結果から、次の二点について重点的に取り組む必要があると考えられる。 ①「家庭学習の向上につながる主体的な学習習慣の確立」 家庭学習に関する保護者アンケートの肯定的評価は49%であるのに対し、生徒は93%と高い数値を示している。授業への意欲は高いものの、家庭学習の習慣が十分に定着していないことがうかがえる。今後は、家庭学習を促す具体的な指導や仕組みづくりの一層の強化が求められる。学校では、確かな学力の育成を図るため、学習の基礎となる「読解力」を高めるための取組を実施し、学力の全体的な向上を図る。また、一人一台端末を効果的に活用した個別最適な学びを実現するための授業改善や取組を継続することで学習意欲の向上を図り、主体的な学習習慣の定着を目指す。 ②「教育相談のさらなる充実」 「教育相談等により生徒の心に寄り添っている」「生徒一人一人を大切にしたい集団づくりに努めている」「いじめ・不登校・非行問題等への生徒指導に力を入れている」といった項目の肯定的評価が、他項目と比べて低い傾向にある。生徒一人一人により丁寧に寄り添い、安心して学校生活を送ることができる集団づくりを一層推進していく必要がある。さらに、不登校生徒への支援については、校内サポートルームを中心に、生徒に寄り添った支援体制を整え、安心・安全な学校づくりを引き続き推進する。 今年度は、校訓「和練（和をもって錬とす）」、スローガン「幸せの輪を広げよう」「自分たちの声で自分たちの学校をつくる」のもと、教育目標「きびしく、やさしく、たくましく行動する生徒の育成」の実現を目指して教育活動を展開している。学校運営協議会の皆様には「砥部中 生事故ゼロ」を目標に、御尽力いただいている。今後も地域の方々から信頼され、愛される学校づくりを目指していく。		